

愛されたいとか言ってる奴は全員死ぬね

◎登場人物

私1・・・大学生。20歳。

私2・・・女子高生。高校2年生。17歳。

私3・・・音楽制作会社の事務に勤務。27歳。

謎の男・・・私1、2、3に愛されては死んでいく謎の男。左記3つの名を名乗る。

浅黄邦博(あさぎ くにひろ)・・・音楽プロデューサー。39歳。

紺野光(こんの ひかる)・・・高校2年生。17歳。

金城修(かねしろ おさむ)・・・建築デザイナー。55歳。

緑川玻瑠(みどりかわ はる)・・・私1、3の友人。

白幡仁実(しらはた ひとみ)・・・東郷(とうごう)大学医学部付属病院の研究医。26歳。

赤羽美和(あかばね みわ)・・・東郷大学医学部付属病院の精神科医。45歳。

白川の指導医。

青柳稔(あおやぎみのる)・・・東郷大学医学部付属病院の外科医。赤羽の同期。45歳。

灰島奏(はいじま かなで)・・・統合失調症の患者。29歳。

石黒萌絵香(いしぐろ もえか)・・・精神疾患で入院中の患者。29歳。

舞台は東郷大学医学部付属病院。

ここでは死は日常茶飯事である。

この物語では、そこで起きた4つの死を取り扱う。

舞台後方には、謎の男のそれぞれの死にちなんだモニュメントが設置されている。モニュメントの前にはそれぞれ椅子が置いてある。

モニュメントの前の3つの椅子に加えて、舞台上手に3つ、舞台下手に3つ放射線状に椅子が置いてあり、上手側には舞台手前から白幡、緑川、青柳が座り、下手側には赤羽、石黒、灰島が座っている。

椅子の下には白い箱があり、役者の小道具はそこに入っている。

舞台中央にはボックスが3つ置いてあり、場面に応じて椅子になったり、ベッドになったりする。

モニュメントを含め、舞台装置は全て色鮮やかなマーブル模様でつくられており、舞台の背面には幾つものハートが吊るされている。

色鮮やかな舞台に対して役者の衣装は黒で統一されている。

○オープニング

【照明…スポット（上手・中央・下手）】

【音響…ティックトックで流行りの曲】

音楽に合わせてスマホを片手に踊る私1、2、3。踊り終えて静止。

私1 愛されたい。

私2 愛されたい。

私3 愛されたい。

私1 愛されたい。

私2 愛されたい。

私3 愛されたい。

私1 愛されたい。

私2 愛されたい。

私3 愛されたい。

私1・2・3のセリフが重なっていく。

【照明…レッド】

私1・2・3 愛されたいとか言ってる奴は全員死ね。

【音響…BGM F・I】

【照明…ブルー】

私1、2、3、回転しながら舞台後方のモニュメントの前の椅子に座り、静止。

【音響…BGM F・O】

○第一幕第一場

同時に白幡、赤羽が立つ。

病院内。

【照明…病院】

白幡 本日からこちらでお世話になる白幡仁実と申します！

赤羽 あなたの指導医になる赤羽です。

白幡 よろしくお願ひします！

赤羽 噂は聞いていますよ。第四科であなたの指導医だった青柳くんは私の同期ですね。

白幡 青柳先生にはお世話になりました。

赤羽 お世話どころじゃないでしょう。あなた、自分がやったことを忘れたんですか？

白幡 え？

赤羽 病院中の噂になってますよ。患者を無理やり退院させて別の病院で手術を受けさせたそうですね？

白幡 そ…それは。

赤羽 真島(ましま)教授が執刀では、成功確率が低いと思っただんですよね？

白幡 ……真島教授は、研究が主の人です。手術の経験は、大学病院以外の先生の方が上です。

赤羽 あなた、ドラマの主人公にでもなったつもりですか？ 昔そんな医療

ドラマがありましたね。「ブラックジャックによるしく」でしたか？

白幡 いえ、そんなつもりは。ただ、私は少しでも患者さんが助かる道を。

赤羽 真島教授に手術の腕がないと、なぜあなたにわかるのですか？

白幡 それは……。

赤羽 青柳くんに言われたんでしょう？

白幡 そ、そうです。

赤羽 真島教授は今マスコミから叩かれていますよ。臨床経験が少なくせ
について。この件、病院内で誰が得したと思います？ 青柳くんですよ。青柳く
んには気をつけた方がいいですよ。

白幡 え？

赤羽 彼はマッドドクターですから。

白幡 全然そんな風には……。手術の腕も素晴らしいですし。

赤羽 真面目。堅物。融通が利かない。頑固。暑苦しい。正義のヒーローぶ
る。正直面倒くさい。

白幡 え？

赤羽 青柳くんがあなたに言ってました。

白幡 私にですか？

赤羽 嘘です。

白旗 え？

赤羽 私のあなたに対する第一印象です。

白幡 は、はあ。なんか、すいません！

赤羽 首から下げてるセキュリティカード、外したほうがいいですよ。

白幡 カードをですか？

赤羽 これから病棟に行きます。患者に引っ張られて首が絞まっても知りま
せんよ。

白幡 は、外します！ (慌ててカードを外す。)

赤羽 ではあなたが担当してもらおう患者さんに会いに行きましかうか。

白幡 はい！

【音響…心電図 F・I】

白幡と赤羽、席に着く。

○第一幕第二場

同時に灰島と石黒が立つ。
精神病棟。

【照明…精神病棟】

灰島と石黒が適度な距離を開けてボックスに座る。
(以降、シーン毎に2人の距離は縮まって行く。)

【音響…心電図 F・O】

【音響…ヒーリングミュージック F・I】

石黒は絵を描いている。

灰島 何の絵を描いているんですか？

石黒 わかりません。

灰島 え？

石黒 完成するまでわからないんです。どんな絵になるのかは。

灰島 そういのですか。

石黒 そういうものなんです。

灰島 あの、飴、舐めますか？

石黒 いいんですか？

灰島 はい、たくさんあるので。

石黒 ありがとうございます。

灰島 どんな絵になりそうですか？

石黒 綺麗な絵になるといいなって思っています。

灰島 そうですか。

石黒 そうなんです。

灰島 完成したら、見せてくださいね。

石黒 はい。

○第一幕第三場

白幡と赤羽が立つ。

赤羽 灰島さん、ちょっとよろしいでしょうか。

灰島 はい。何でもでしょうか。

赤羽 ご紹介します。こちら今日からあなたの担当になる白幡先生です。

白幡 研修医の白幡と申します。よろしくお願ひします！

灰島 よろしくお願ひします。

赤羽 灰島さん、何か困ったことがあれば白幡先生におっしゃってください。

もちろん私でも構いませんが。

灰島 はい。わかりました。

白幡 気軽に何でも聞いてください！

白幡、赤羽、静止。

灰島、石黒、席に座る。

【音響…ヒーリングミュージック F・O】

○第一幕第四場

病院内。

【照明…病院】

白幡 あの、私は何をすればいいでしょうか？

赤羽 特に。何かあれば指示を出します。

白幡 え？ どういうことですか？

赤羽 言葉通りです。何もしなくていいです。

白幡 それって。

赤羽 うちの研修はスーパーローテーション方式。2年間の間に複数の科を数ヶ月ずつ回る方式です。あなたは研修を終えた後、精神科医になるつもり

はありますか？

白幡 え？

赤羽 青柳くんにはあなたの志望は外科だと聞いています。

白幡 ……はい。

赤羽 さっきご紹介した患者、灰島奏さん。統合失調症で入院しています。

統合失調症は精神機能のネットワークがうまく働かなくなる病気です。精神

機能のネットワークというのは脳内の様々な場所で行われています。その不調の場所によって実在しない人の声が聞こえたり、幻覚が現れたり、何かに監視されたり悪口を言われていると思いきんどります。

白幡 はい。

赤羽 この病気は手術や薬で完治する類のものではありません。たかが1、2か月の研修で何かができるとは思ってませんから。

白幡 そんな……。

赤羽 外科になるならここでの経験はさほど役に立ちませんよ。

【音響…心電図 F・I】

赤羽、席に着く。

○第一幕第五場

同時に灰島が立つ。
精神病棟。

【照明…精神病棟】

ボックスに腰掛ける灰島と白幡。

【音響…心電図 F・O】

灰島 白幡先生。

白幡 はい。

灰島 白幡先生は、今付き合ってる人はいいますか？

白幡 え？ どうしてそんなこと。

灰島 何でも聞いていいって言われたので。

白幡 まあ、言いましたね。

灰島 彼氏、いるんですか？

白幡 ……いますよ。

灰島 どうやって知り合ったんですか？

白幡 高校時代の友人です。

灰島 女の人って、どうしたら彼女になってもらえますか？

白幡 え？

灰島 ……気になっている人がいるんです。
白幡 そうですか。それは、いいことですね！
灰島 でも、どうしたらいいかわからないんです。
白幡 どうしたらいいか？
灰島 僕、生まれてから29年間、彼女ができたことがないんです。
白幡 そう、なんですね。
灰島 だから、どうしたらいいかわからなくて。
白幡 そうですか。
灰島 この歳になって変ですよね？
白幡 ……別に变じゃないですよ。

【音響…嘲笑の声 C・I】

席に座っている者もヒソヒソと嘲笑する。

灰島 ……嘘だ！

白幡 え？

灰島 先生も僕を馬鹿にするんですね！

白幡 いや。

灰島 ……やめろ！ 言うな！ 僕はキチガイじゃない！ キチガイなんか

じゃない！ キチガイなんかじゃない！

白幡 落ち着いてください。灰島さん！

灰島、暴れる。止めようとする白幡。

灰島が白幡の首を絞める。

灰島 わかったぞ！ ここは病院じゃないんだな！ 僕のことを騙して閉じ込めてるんだ！ 出せ！ ここから出せ！ 出せ！ 出せ！ 出せ！ 出せ！ 出せ！ 出せ！

赤羽が立ち上がり、灰島の肩に両手を添える。

赤羽 灰島さん！ 大丈夫。大丈夫です。

【音響…嘲笑の声 F・O】

席に座っている者は静止。

灰島の手が緩まる。退く白幡。

灰島 赤羽先生……。

赤羽、灰島を席に着かせる。

【照明…病院】

○第一幕第六場

赤羽 何がありました？

白幡 いえ、ただ灰島さんの方から恋愛話を一方的に……。気になる人がいるけど自分は付き合ったことがないからどうしたらいいかと。

赤羽 なるほど。少し、様子を見ましようか。

白幡 様子を見る？ 大丈夫なんですか？ 患者が恋愛なんて。

赤羽 何がですか？ 恋愛は人間にとってごく自然に発生する現象です。

白幡 それはそうですが……。

赤羽 精神病患者は恋愛をしてはいけませんか？

白幡 いや、そういうことでは。

赤羽 灰島さんは退院後の目標が見つからずにはいませんでした。もしかすると恋愛

は彼の目標になるかもしれません。

白幡 はい。

赤羽 白幡先生。偏見は捨てましょう。

白幡 ……失礼しました。

【音響…心電図 F・I】

赤羽、白幡、席に着く。

○第一幕第七場

同時に灰島と石黒が立つ。

精神病棟。

【照明…精神病棟】

ボックスに腰掛ける灰島と白幡。

【音響…心電図 F・O】

【音響…ヒーリングミュージック F・I】

灰島 また暴れてしまったみたいです。

石黒 そうですか。

灰島 ダメダメですね。

石黒 そんなことないと思いますよ。

灰島 いえ、ダメダメです。

石黒 落ち込んだ時は、音楽を聴くといいですよ。

灰島 音楽…ですか？

石黒 音楽には、人の心を動かす力があると思います。

灰島 そうかもしれません。

石黒 今流れている音楽。

灰島 はい。

石黒 私たちの気持ちが悪く着くようにこういう曲が流れているんだと思います。

灰島 そうですね。

石黒 灰島さんはどんな音楽が好きですか？

灰島 僕、あんまり音楽って聞かないんですよ。

石黒 そうなんですね。

灰島 石黒さんのオススメはなんですか？

石黒 そうですね。私が落ち込んだ時にいつも聞くCDがあるんです。それをお貸しします。

灰島 本当ですか？

石黒 お礼です。

灰島 お礼？

石黒 先生以外で、ここで話しかけてくれたのは、灰島さんだけだったので。そのお礼です。

灰島 ……ありがとうございます。

灰島、石黒、席に着く。

【音響…ヒーリングミュージック F・O】

○第一幕第八場

白幡、青柳、席を立つ。

病院の屋上。

【照明…屋上】

青柳 白幡先生。偏見は捨てましょう。

白幡 モノマネしないでください。

青柳 (笑って) それにしても随分きつく当たられたな。

白幡 笑い事じゃないですよ。

赤羽 馬鹿と煙は高いところが好きってね。

赤羽、席を立つ。

赤羽 屋上はもはや青柳くんの庭ね。

青柳 よう。次はお前がこいつの指導医なんだってな。

赤羽 そうだけど？

青柳 こいつ、見込みあるぜ？ 俺と同じ匂いがする。

白幡 そう、ですかね？

赤羽 青柳くんと同じってことは危ういってこと。気をつけた方がいいです

よ。

白幡 は、はあ。

青柳 そんなこと言うなって。東郷大附属病院きつてのエリート様に向かつてさあ？

赤羽 あなたの点数が高いのはむやみやたらと患者を切り刻んでいるからでしよう？ 真島教授が失脚しそうで嬉しいですか？

青柳 言ってくれるなあ。

白幡 あの、青柳先生。

青柳 なんだ？

白幡 どうして私が青柳先生と同じ匂いがすると思ったんですか？
赤羽 彼のところであなただけ、一人の癌患者と出会ったでしょう？
白幡 はい。
赤羽 その患者が亡くなった時、あなた大号泣してましたね。
白幡 ……はい。そうです。
青柳 なんて泣いた？
白幡 だって、そりゃ数週間しか一緒にはいませんでしたけど、やっぱり悲しかったですから。
赤羽 医師は患者に必要な以上に感情移入すべきではありません。
白幡 そうかもしれないけど。
青柳 だからよお。お前はドラマを見ていたんだよ。
白幡 ドラマ？
青柳 いいか？ 死つてのはドラマだ。病室ごとにストーリーがある。言ってみりゃオムニバスだ。日々新しいストーリーが生まれては消えていく。俺たちはそのドラマを一番間近で体験できるんだ。
白幡 そんなの、不謹慎です。
青柳 じゃあなんで泣いたんだ？ 赤の他人の死に涙するのはドラマを見た時くらいだけ？ お前は自分でも気づかないうちに、その患者にドラマを見て楽しんでるんだよ。
白幡 楽しんでなんていません！
赤羽 白幡先生、あなたはどのようにして医者になったのですか？
白幡 私は子供の頃、入院した時に会ったお医者さんの姿を見て……。
青柳 嘘だな。
白幡 え？
青柳 お前、気付いたらここにいたんだろ？
白幡 そんなことありません！
青柳 子供の頃入院して云々なんて後付けだ。お前は受験勉強を必死で頑張っただけで、常に成績上位、成績上位をキープしてきた結果、天下の東大医学部にやってきました。俺と一緒にだ。
白幡 ……百歩譲ってそうだったとしても、私は自分で決めて医者になったんです。私は立派な医者になるために……。
赤羽 立派な医者とは外科医なんですか？

白幡 え？

赤羽 外科医はいわゆる院内でもエリートコースです。あなた、それ以外に外科医を目指す理由がありますか？

青柳 お前、何で入院してたんだ？

白幡 ……胃ポリープです。

青柳 内科だな。

白幡 ……そうです。

青柳 認めちまえよ。楽になるぜ？ 俺と一緒にドラマづくりのために医者やってこうぜ？

白幡 ……嫌です！

赤羽 ……青柳くんは先ほどオムニバスと言いました。

白幡 はい？

赤羽 少し、そのオムニバスを紐解いてみましょうか。

青柳 なんだ？ 昔話でもするつもりか？

赤羽 はい。座学の時間です。私は今あなたの指導医ですから。どうですか？

白幡 白幡先生。聞きますか？

白幡 どういうことでしょうか？

赤羽 知っての通り病院には死が溢れています。青柳くんの言うようにそれが1つ1つドラマであり、オムニバスなのだとしたら、その中からよりドラマ性の高いものをピックアップしてお話ししてあげましょうということですよ。

白幡 ドラマ性の高いもの……。

青柳 お、面白そうじゃねえか。俺にも聞かせてくれよ。

赤羽 どうですか？ ご興味、ありますか？ もしかするとそれによって、あなたの進む方向が見えてくるかもしれませんよ。

白幡 ……はい。聞きます！ 聞かせてください。それで、少しでも私の中の何かが変わるなら！

青柳 相変わらずかかってえな。お前は。

白幡 すいません。

赤羽 それでは、お話ししましょう。3人の「私」が遭遇した3つの「死」のお話しを。

【照明…ブルー】

【音響…ピアノ F・I】
赤羽、白幡、青柳、座る。

○第二幕第一場

私1、緑川、立ちあがり、ボックス席に座る。
席に座っている者はエキストラとして談笑する。

【音響…ピアノ F・O】

カフェ。

【照明…室内】

緑川 なんか嬉しそうじゃん。

私1 まあね。

緑川 どうしたの？

私1 彼がね、私のために曲つくってくれてるって！

緑川 へえ、良かったね。なんかの記念？

私1 私の二十歳の誕生日。

緑川 いーねー。

私1 誕生日の日にリリースするんだ。

緑川 え？ 売られんの？

私1 もちろん。

緑川 はー。すごいねー。どんな曲なの？

私1 リリースまで秘密だって。楽しみ！

緑川 ふーん。

私1 玻璃は？ 最近彼とはどうなの？

緑川 私？ 別れたよとっくに。

私1 えー。もう？

緑川 あれはダメだね。顔だけ。

私1 1ヶ月ももってないよね？

緑川 正確には3週間ね。毎日電話してくんの。うざすぎ。

私1 毎日はキツイね。

緑川 ま、また次見つけたからいいんだけどね。

私1 また合コン？
緑川 まーねー。あんたもたまには参加したら？
私1 私はそういうの苦手だからさ。
緑川 来れば絶対楽しいのに。
私1 初対面の人とか無理だし。
緑川 何言ってるの。人類皆初対面。初対面から全ては始まるんだよ。
私1 うん。その話どうでもいい。
緑川 あんたねー。自分が彼と上手くいってるからって調子乗ってー！

【音響：青春映画などによく使われて一定層からは嫌われる(嫌いな歌姫ランキングなどに入る)曲① F・I】

【照明：スポット(中央・下手)】

緑川、席に着く。

エキストラ、静止。

○第二幕第二場

私1、中央へ。下手に謎の男(朝黄)がギターを持って出てくる。

謎の男はギターで作曲をしている。

私1 私の彼は、浅黄邦博。39歳。私はクニって呼んでる。私とは一回り以上離れてるけど、全然そんな風に感じない。むしろ子供っぽいくらい。家に帰ってくると服は脱ぎ散らかしてるし、鞆も玄関に置きっぱなし。好きな食べ物はハンバーグとオムライスと唐揚げだし。心が若いのは職業の影響もあるのかな？ クニの職業は音楽プロデューサー。ライブハウスにレコーディングスタジオ、インディーズレーベル、音楽プロダクションとか、音楽関係の色んな事業をやってるの。私とクニが初めて会ったのは、彼が運営してるライブハウスに玻璃と遊びに行った時。玻璃が顔見知り見つけて一人ぼっちになってしまった私に彼は気さくに話しかけてくれたの。

謎の男 大丈夫？

私1 え？

謎の男 君、友達と一緒に入ってきたよね？ 友達は？

私1　それが、見失っちゃって。私、こういうところ初めてで。

謎の男　わかる。初めて来る時って緊張するよね。俺もさ、ここ自分で作ったはずなのに、ちよつと緊張するもんね。

私1　最初はオーナーとお客さんっていう関係だったけど、徐々に、ね。そのうち彼が開催する音楽イベントとかにも呼んでもらえるようになって、私は彼にどハマリした。元々音楽とかってあんまり聞かなかったんだけど、彼と付き合いだしてから色々聞くようになったの。玻璃に頼んでフェスとかにも連れて行ってもらったりね。フェスの空気はちよつと苦手だったけど、それでも彼のための勉強だって思って我慢した。我慢してるのも楽しかったしね。

【音響…青春映画などによく使われて一定層からは嫌われる(嫌いな歌姫ランキングなどに入る)曲① F・O】

【照明…スポット(中央)】

私1　でもそんな楽しい日々は長くは続かなかった。

私1、席に着く。

○第二幕第三場

同時に青柳、席を立つ。
病院。

【照明…病院】

ボックスに座る青柳と謎の男。

青柳　膵臓癌です。

謎の男　え？

青柳　2センチほどの影が見えます。この大きさであれば、転移の心配はないでしょうね。

謎の男　癌……なんですすよね？

青柳　はい。今わかってよかったですね。まだ手術でとれる大きさですよ！

謎の男 あのだ……僕にはまだまだやりたいことがあるんです。やり残していることがあるんです。どうか、よろしくお願い致します。

謎の男、去る。

青柳、立つ。

【照明…屋上】

○第二幕第四場

赤羽 馬鹿と煙は高いところが好きってね。

赤羽、席を立つ。

青柳 おう。

赤羽 診断がついてから3ヶ月後の生存率は50%。1年後は10%。

青柳 膵臓癌ってのはそういうもんだ。

赤羽 膵臓以外のCT、混み合っていて、1週間後以降になるって聞いたけど？

青柳 待ってる暇はない。切るさ。

赤羽 そう。

赤羽、席に戻ろうとする。

青柳 お前は精神科医だろ？ 外科のやることに口出すんじゃないやねえよ。

赤羽 出してないでしょ？

青柳 しょうがねえだろ？ CT待ってる間にも癌は転移する恐れがある！

幸い膵臓のCTとレントゲンには癌は確認できてねえ！ なら切っちゃまって

転移がなきゃそれで成功だ！ 俺は患者に嘘はついてねえ！

赤羽 だから、何も言っていないでしょ？

赤羽、席に着く。

【照明…病院】

○第二幕第五場

謎の男、入ってくる。

青柳と謎の男、ボックスに座る。

謎の男 手術は、成功したんですよ？

青柳 はい。確かに浅黄さんの膵臓癌は切除しました。この手術は成功と言えます。ですが、先日行った全身のCTの結果、癌は既に転移していたことがわかったんです。手術後も抗がん剤を使用していたのは、この転移した癌を縮小させるためです。

謎の男 ……つまり、どういうことですか？

青柳 統計的に言えば、あなたの余命は後2か月ということですよ。

謎の男 ……2か月。

青柳 あくまで統計的なお話ですが。

青柳、席に着く。

○第二幕第六場

緑川、席を立ち、ボックスに座る。

緑川 彼女には、言ったんですか？

謎の男 いや、明日、公式発表をするから、そこで知ることになるだろうね。

緑川 言っただけの方がいいんじゃないですか？

謎の男 ……言えないよ。彼女の悲しむ顔を見たくない。

緑川 もう、会わないつもりですか？

謎の男 ああ。

緑川 いいんですか？ それで。

謎の男 わからないよ。

謎の男、去る。

緑川 静止。

○第二幕第七場

私 1、立つ。

私 1、ボックスに座る。
家。

【照明…室内】

私 1 発売延期になっちゃったよー。

緑川 え？

私 1 私の誕生日の曲。

緑川 あ、うん。そうだね。

私 1 思いが溢れすぎちゃったのかなー。

緑川 あ、ね。

私 1 クニ最近忙しそうだから、まあしょうがないよね。

緑川 うん。

私 1 全然会えてないけど、その分発売が楽しみ！

緑川 うん。

私 1 ちょっと玻璃ー。聞ってるの？

緑川 ねえ。

私 1 何？

緑川 何も聞いてないの？ 今日のこと。

私 1 今日のことって？

緑川 ……あのさ。

私 1、緑川、静止。

青柳 立つ。

下手から謎の男が出てくる。

記者会見。

席に座っている者はエキストラとして記者になる。

【照明…スポット(下手)+ボックス周り】

【音響…BGM F・I】

謎の男 いつもたくさんの皆様にご声援をいただきまして、心より感謝致しております。この度は皆様に、大切なご報告があります。私、浅黄邦博は、先日膵臓癌と診断されました。統計的に言えば私の余命は後2ヶ月だそうです。主治医となる先生に、私がこのことを世間に伝えた方が良いのかどうかをお聞きしました。先生は仰いました。

青柳上手にて。

【照明…スポット(上手)+スポット(下手)+ボックス周り】

青柳 死の瞬間、人にとって一番大事になるのはなんだと思いますか？ それは、癒しです。ですからあなたにとって一番癒しとなる道を選ぶのが良いと思います。そしてこれは私の個人的な意見になってしましますが、浅黄さん、あなたはその死を世の中に見てもらわなければならないと思います。あなたの癒しは、周りにあなたを応援する人たちがいることです。まあ、あくまで最終的なご判断は浅黄さん自身がすることですがね。

青柳、静止。

【照明…スポット(下手)+ボックス周り】

謎の男 その結果私は、みなさまにきちんと、ありのままの状況を話すという選択をしました。私には現在お付き合いをしている方がいます。両親が既に他界している私には、家族と呼べる人間はおりませんでしたので、まず彼女に伝えるべきだと思いました。ですが、彼女の顔を思い浮かべた瞬間、その思いは消えました。私が最後に思い浮かべるのは、彼女の泣き顔ではなく、笑顔であってほしい。そう思ったんです。だから、これを伝えた時の彼女の表情を見たくなかった。おそらく彼女はこの発表で癌のことを知ると思いますが。どうか面と向かって言えなかった私の弱さを許してほしい。私の中のあなたは笑っていて欲しかったから。彼女のことを考えた夜に私は初めて泣きました。両親がまだ生きていた頃、私によくこう言いました。「誰かのために

なることをしなさい」と。だから私は、残された時間、できる限り自分の音楽活動を続けようと決めました。私の活動が少しでも皆さんの心に勇気と元気を与えられれば、そう思っただけで、残りの期間を過ごしていきます。皆様にはどうか、温かく見守って頂ければと思います。長々と失礼致しました。

謎の男、去る。

エキストラ、静止。

青柳、席に着く。

【照明…室内】

【音響…BGM F・O】

私1、泣いている。

緑川 ごめんね。言えなくて。

私1 いいよ。クニが、そう言ったんだもんね。

緑川 うん。

私1 もう、会えないのかな。

……。

私1 会って、くれないのかな。

……。

緑川 ……。

私1 玻璃。

緑川 ……何？

私1 ちょっと手伝って！

私1、緑川の手を引っ張る。

緑川 え？ ちょっと？ どうしたの？

【照明…屋外】

【音響…BGM F・I】

私1、自分のボックスからカメラを取り出す。

私1 これ！

緑川 カメラ？
私1 これで私を撮って！
緑川 写真を？
私1 会ったら、泣いちやうから。写真だけでも、笑顔の私を、送りたいの！
緑川 ……そっか。
私1 いっぱい可愛く撮ってね！
緑川 うん！
私1 じゃあ、どこで撮ろうか。
緑川 そうだねー、思い出の場所でも巡りますか？
私1 うん！ いい？ 全部回るよ！ 一週間はかかるね！
緑川 付き合うよ！

私1、緑川、舞台上を回って写真を撮る。
席に座っている者は立ち上がり、エキストラとして風景になる。

○第二幕第八場

謎の男、ボックスに座る。
病室。

【照明・病院】

青柳はその横に立つ。
謎の男は手紙を読んで、泣いている。

青柳 それは？
謎の男 彼女からの、手紙です。
青柳 そうですか。
謎の男 ねえ先生。
青柳 はい。
謎の男 これが、癒しなんですネ。
青柳 そうかもしれないね。
謎の男 ……ああ、もう大丈夫だ。これで、悔いはない。今まで生きてきて、よかった。

謎の男、静かに横になる。

赤羽、席を立つ。

【照明…屋上】

青柳 浅黄さん、さっき、安らかに逝ったよ。

赤羽 そう。……泣いてるの？

青柳 泣いちゃ悪いかよ。

赤羽 ……しっかりしなさい。あなたは医者でしょ？

青柳、赤羽、静止。

【照明…屋外】

緑川 ここが最後だね。

私 1 うん。

緑川 じゃあとびっきりの笑顔でお願い！

私 1 うん。

私 1、うつむく。

緑川 どうしたの？

私 1 これで……最後なんだね。

緑川 ……うん。

私 1 玻璃。

緑川 何？

私 1 ダメだ……私。うまく笑えないや。……これで、最後なのに。……最後だからかな、クニの顔がさ、頭から離れないの。

緑川 いいんじゃない？

私 1 え？

緑川 最後はさ、ありのままのあんたを撮ってあげるよ。

私 1 ……うん。

緑川 じゃあ撮るよー。

私 1 うん！

緑川、シャッターを切る。

緑川、エキストラ、静止。

【音響…BGM F・O】

私1、シャッターを切った後、中央へ。

【照明…スポット(中央)】

私1　でも私は最後まで笑うことにした。

【照明…ブルー】

【音響…ピアノ F・I】

謎の男、去る。

私1、緑川、エキストラ、席に着く。

○第三幕第一場

白幡、席を立つ。

【音響…ピアノ F・O】

屋上。白幡、泣いている。

【照明…屋上】

青柳　泣いてんじゃねえよ。

白幡　……すいません。

赤羽　浅黄さんが最後に作詞した曲は、多くの人に勇気と元気を与えたそうですねよ。

白幡　私も……両親に「人のためになることをしなさい」って言われてたなあって思い出しました。

赤羽　そうですね。

青柳　呪いの言葉だな。

白幡　え？

青柳　世のため人のためってな。アホらしい。

白幡　なんでですか？　世のため、人のため、素晴らしいじゃないですか！

青柳 いいか？ なぜ人は人を慈しみ、愛すると思う？

白幡 それは、その人のことが大切だからじゃないんですか？

青柳 違うね。結局自分が愛されたいのさ。

白幡 そんなこと、ないと思いますけど。

青柳 だって俺は愛されたいもん！

白幡 え？

青柳 こんなに天才的な技術を持ってて、金も持ってて、男前で、人のために泣けるお人好しのこの俺が！ なんで誰からも愛されないんだー！ おかしいだろ？ 世の中狂ってやがる！ なあ、愛してくれよー。白幡ー。俺を愛してくれよー。お前なら俺を愛せるだろ？ なあ白幡ー。

白幡 怖いんですけど。

赤羽 青柳くん。脱線してますよ。

青柳 うるせー！ 赤羽ー。この際お前でもいいよー。愛してくれよー。俺を愛してくれよー。なあ、頼むよー。

赤羽、青柳をビンタする。

間。

【音響…携帯の着信音】

青柳 はい。青柳。……そうか。わかった。なるほど。すぐ行く！

青柳、電話を切る。

青柳 てなわけで、もう行かなきゃなんねえな。おい赤羽、続きはまた今度にしてくれよな！

青柳、席に着く。

白幡 ……なんですか今の。

赤羽 彼、バツイチなんです。

白幡 はあ。

赤羽 子供もいるんですよ。

白幡 そうなんです。ね。
赤羽 (笑って)悪影響になるからって会わせてもらえないらしいですけど。
白幡 ……なんか嬉しそうですね。
赤羽 他人の不幸は蜜の味ってやつです。さあ、我々も病棟に戻りましょうか。
白幡 はい。
赤羽 続きはまた今度ということので。
白幡 わかりました。

【音響…心電図 F・I】

赤羽、白幡、席に着く。

○第三幕第二場

同時に灰島と石黒が立つ。
精神病棟。

【照明…精神病棟】

灰島、石黒、ボックスに座る。

【音響…心電図 F・O】

【音響…ヒーリングミュージック F・I】

石黒、絵を描いている。

灰島 あの、飴、舐めますか？
石黒 いいんですか？
灰島 はい、たくさんあるので。
石黒 ありがとうございます。
灰島 石黒さんは、ここから出たらしたいことはありませんか？
石黒 わかりません。
灰島 僕も、わからなかったんです。でも、最近思うようになりました。
石黒 何をです？
灰島 ここを出たら、働きます。普通に働いて、普通に暮らして、普通に家庭を持つ。そんなことが、してみたいです。

石黒 いいですね。
灰島 石黒さんのおかげです。
石黒 私の？
灰島 はい。
石黒 私は灰島さんに何もしてないですよ。
灰島 いえ、僕は石黒さんといると、楽しいんです。だから、いてくれるだけいいんです。
石黒 私も、灰島さんとお話するのは、楽しいですよ。
灰島 ……好きです。
石黒 え？
灰島 好きです。
石黒 ……ありがとうございます。
灰島 ……あ、すいません、急にこんなこと言って。困りますよね？
石黒 はい。困りました。
灰島 ……。
石黒 でも、嬉しいです。

石黒、席に着く。

【音響…ヒーリングミュージック F・O】

○第三幕第三場

白幡、灰島、席を立つ。

【照明…屋外】

陶芸教室の帰り。

ボックスの周りを回りながら。

白幡 どうでしたか？ 陶芸は。
灰島 はい。初めてやりました。楽しかったです。
白幡 これも治療の一環なんですよ。作品づくりの中で共同作業が発生します。そこでコミュニケーションを図って、情緒の安定、よりよい対人関係を築くことが目的です。

灰島 そうなんですネ。

白幡 灰島さんの経過は非常に良好ですから、こうして徐々に外に出ていくことが肝心です。

灰島 あの、先生。

白幡 はい。

灰島 この前、勢い余って告白してしまいました。

白幡 え？

灰島 彼女、困ってました。でも、言ってくれたんです。嬉しいって。

白幡 よかったですね。

灰島 僕、彼女に好きになってもらえますかね？

白幡 灰島さんなら、大丈夫ですよ。

【音響・嘲笑（お前には無理だよ等の声） C・I】

席に座っている者もヒソヒソと嘲笑する。

灰島、頭を抱える。

白幡 灰島さん？

灰島 ……大丈夫。大丈夫です。

【音響・嘲笑（お前には無理だよ等の声） F・O】

席に座っている者、静止。

灰島 すいません、もう大丈夫です。

白幡 大丈夫ですか？

灰島 はい。…先生。

白幡 はい。

灰島 僕、普通に外で働けますよね？

白幡 はい。大丈夫ですよ。自信持ってください。

灰島 はい。頑張ります。

白幡 病院に、戻りましょうか。

灰島 はい。

白幡、灰島を席に着かせる。

○第三幕第四場

赤羽、席を立つ。

【照明…屋上】

白幡 赤羽先生の見込み通りですね。恋愛によって灰島さん、とても強くなりました。

赤羽 ここまでは、順調です。大事なのは、ここから。

白幡 え？

赤羽 灰島さん、踏ん張りどころです。

白幡 はあ。

青柳 馬鹿と煙は高いところが好きよーんってな。

青柳、席を立つ。

白幡 青柳先生。

青柳 よお。

赤羽 私はその馬鹿に合わせてここに来てるんだけど。

青柳 へいへい。

赤羽 青柳くん。

青柳 ん？

赤羽 さっき病院長とここそ話してたみたいだけど。なに話してたの？

青柳 ん、ああ。新棟だよ新棟。第四外科をそっちに移せないかと思ってよ。

赤羽 新棟は各科がこぞって狙ってる。あなたが直談判した程度じゃ決まらなと思うけど？

青柳 やるだけやってみるってのが大事だろ？

白幡 新棟？

青柳 業務拡大のために新しい病棟ができるんだよ。で、その使い道をどうするかって今揉めてるとこなのよ。

白幡 そういうのって普通先にどう使うか決めませんか？

青柳 決まってたんだよ。救命救急に使おうってな。でも！ こいつがさ。
白幡 赤羽先生が何かしたんですか？
青柳 救命救急の現状の赤字状態を一気に攻め立てたんだよ。これで新棟に
救命救急拡大なんかしたら赤字が膨れるだけですーつつつてな。
赤羽 事実を述べただけです。
青柳 それで、新棟の使い道がいったん白紙になったわけよ。
白幡 なるほど。
青柳 青柳くん、もういいでしょその話は。
青柳 お前からしてきたんだけどなあ。
赤羽 白幡先生、話を変えますよ。
白幡 はい。オムニバスの続きですか？
赤羽 そうです。
青柳 おい白幡、ここからが本番だぜ？
白幡 本番？
青柳 耳の穴かっぽじってよく聞いとけよ。
白幡 青柳先生は赤羽先生が何を話すか知ってるんですか？
青柳 知ってるつつつか、わかったってことだな。1つ目の話を聞いた時に
なんとなくな。
白幡 はあ。
赤羽 2つ目のお話の前に1つ言っておくことがあります。
白幡 なんでしょう？
赤羽 先日のお話に出てきた浅黄邦博さん、彼は後2回死にます。
白幡 え？ どういうことですか？
赤羽 言葉通りです。彼は後2回死ぬんです。
白幡 おっしゃってるがよくわかりません。人の命は1つですよ？
赤羽 ですから、その辺を考えながらよく聞いてください。
白幡 はあ。
青柳 よーく考えろよ。お前自身のためにな。
白幡 はい。

【照明…ブルー】

【音響…ピアノ】

赤羽、白幡、青柳、座る。

○第四幕第一場

私2、席を立つ。

謎の男(紺野光)、出てくる。

席に座っている者も立ち上がり、エキストラとして通行人となる。

【照明・屋外】

放課後の帰り道。ボックスの周りを回りながら。

私2 光。練習終わった？

謎の男 ああ。

私2 じゃあ、一緒に帰ろ。

謎の男 うん。

私2 もうすぐだね、文化祭。

謎の男 ああ。

私2 どう？ バンド順調？

謎の男 テツがさあ、もう一曲増やしたいとか急に言い出して。

私2 もう一曲やるの？

謎の男 そう。もう大変。

私2 それもブルーハーツ？

謎の男 うん。「青空」。

私2 生まれた所や皮膚や目の色でいったいこの僕の何がわかるというのだ

ろっく

謎の男 お前が知ってるなんて珍しいじゃん。

私2 有名だからね。

謎の男 「人にやさしく」も知らなかったくせに？

私2 「終わらない歌」は知ってたでしょ！

謎の男 自慢にならないっての。

私2 音楽あんまり聞かないんだもん。

謎の男 本ばっか読んでないで、たまには音楽聴けよ。

私2 そんなの私の勝手でしょ？

謎の男 文芸部は？ なんかやんの文化祭？

私2 うん。みんなの作品を冊子にして部室で公開するの。

謎の男 じゃあ俺に1部とっというてよ。

私2 部室に取りに来ればいいじゃん！

謎の男 文芸部の部室行くのってなんか恥ずかしいだろ。

私2 何それー。

謎の男 いいだろ。お前が書いたの読んでやるって言ってんだから。

私2 まあ、いいけど。

謎の男 だからお前も見に来いよ、俺たちのバンド。

私2 唯一帰宅部が輝ける瞬間だもんね。

謎の男 うるせー。

私2 じゃあまた明日ねー。

謎の男 ああ。

エキストラ、席に着く。

【照明…スポット(中央・下手)】

【音響…青春映画などによく使われて一定層からは嫌われる(嫌いな

歌姫ランキングなどに入る)曲②(①よりも古い曲) F・I】

私2、中央へ。

○第四幕第二場

謎の男、ギターを持って下手へ。

謎の男、練習をしている。

私2 こいつは、紺野光。私の幼馴染だ。家が隣で生まれた日も2日違い。

同じ病院で生まれてるし、頭の良さも同じ位だったから高校までずーっと一緒。所謂腐れ縁ってやつだ。私は基本インドアな性格なんだけど、幼稚園の頃とかは、よく光に連れまわされて外で泥んこになって遊んでたらしい。全く覚えてないけどね。中学に入った位から光はブルーハーツにはまった。でも残念なことに中学も高校も軽音部とかはなかったから、光は部活に入らなかった。家でギターばかり弾いてた。そんな光が一年に一度輝けるのが、

文化祭ってわけ。普段は全然イケてないけど、演奏してる時の光はちよつとかっこいいなって思う。私にはそんな風に輝ける場所もないから羨ましさもあるんだけど。え？ 恋愛感情？ ないない。光は馬鹿だからちよつと可愛い女の子がいるとすぐ寄ってっちゃうの。で、なんとか付き合おうとこまでいくんだけど1週間位ですぐフラれちゃうんだよ。それを慰めるのが私の仕事。恋愛っていうか、もう保護者。あ、でも幼稚園の頃に、2人で公園のブランコで遊んでたら、小学生の男の子が私と遊びたがって、腕引っ張って滑り台に連れてこうとしたの。そしたら光はさ。

謎の男 こいつは俺の女だ。手を出すな！ 一生俺の女なんだ！

私2 だって。一生俺の女って。笑っちゃうよね。あの時くらいかな、ドキッとしたのは。小学生も意味わかんないこいつってなって逃げてったもんね。まあ、光はそんなことがあったの絶対覚えてないと思うけどね。

【音響…青春映画などによく使われて一定層からは嫌われる(嫌いな歌姫ランキングなどに入る)曲②(①よりも古い曲) F・O】

【照明…スポット(中央)】

○第四幕第三場

放課後の公園。

私2、謎の男、ボックスに座る。

【照明…屋外】

私2 またフラれたの？

謎の男 うん。

私2 いったも全然続かないんだから。

謎の男 今回は続くと思ったんだよ。

私2 それもう聞き飽きたから。

謎の男 だってさー。

私2 もうしばらく彼女つくるのやめたら？

謎の男 それは寂しいじゃん。

私2 なにそれ。

謎の男 だから、今度は佐久間に告白する。

私2 はあ？ 佐久間さんって3組の？

謎の男 そう。文化祭でいいとこ見せて、そのまま一気に決める。

私2 いや、無理でしょ？

謎の男 なんでわかるんだよ。

私2 だって光、佐久間さんとほとんど喋ったことないじゃん。

謎の男 いいんだよ、かわいいから。

私2 うわー、最低。

謎の男 うっせー。

私2 誰でもいいわけ？

謎の男 その通り！ 誰でもいいの。

私2 だったらさ。

謎の男 た、だ、し！ お前以外ならな。

私2 はあ？ こっちだってあんたなんて願い下げだよ！ せっかく慰めて

やっつんのになにその態度！ あーもうキレた。あんたのバンドなんか見に

行ってやんないから！

謎の男 はあ？ それとこれとは関係ねえだろ？

私2 関係あるよ！

謎の男 来いよ！

私2 行かない！ 佐久間さんが見に来てくれるんだからいいでしょ！

私2、中央へ。

○第四幕第四場

【照明…スポット(中央)】

私2 結局私は、光のバンドを見に行かなかった。

【照明…室内】

【音響…体育館ライブ前の環境音】

私2、席に着く。

席に座っている者はエキストラとして観客になる。

謎の男、中央へ。

【音響：THE BLUE HEARTS 「人にやさしく」 C・I】

謎の男、ギターを弾く。

【照明：ライブ】

謎の男、突然倒れる。

【照明：レッド】

【音響：THE BLUE HEARTS 「人にやさしく」汗をかいて生きよう C・

0】

「おい大丈夫か！」「光？ 光！」等、謎の男を心配する声。

【照明：暗転】

【音響：救急車の音】

○第四幕第五場

【照明：病院】

病室。

謎の男が寝ているところに青柳が立っている。

青柳 自己貪食(どんしょく)空胞性ミオパチーに酷似した病気ですね。

謎の男 ……はい。

青柳 徐々に四肢の筋力低下、筋萎縮が見られ、進行する重症の心筋症と不整脈も起ります。今回紺野さんが倒れたのは、不整脈によるものだと思います。今まで紺野さんが通院されていた病院での治療は適切だったと言えるでしょう。今回倒れたのは、前の先生のせいではありません。

謎の男 そうですか。

青柳 この病気は現在明確な治療法は見つかっていません。投薬治療や、不整脈に対する治療をしていくしかないのです。

謎の男 やっぱりなー。

青柳 やっぱり？

謎の男 親は、病院変えたら何かが変わるんじゃないかって思ったみたいですが。俺は、自分の身体ですから。なんとなくわかってました。でも、文

化祭はやり遂げたかったな！。

青柳　　そうでしたか。……紺野さん、何か異変を感じたらすぐに看護師をお呼びください。

謎の男　わかりました。

青柳　　では。

謎の男　先生！

青柳　　はい。

謎の男　俺、小学生の頃にこの病気だっって言われて、その時10年位で死ぬ可能性があるっって言われました。

青柳　　はい。

謎の男　俺、もう治らないんですよ。

青柳　　先ほど申し上げたように、残念ながら現在の医療では治療法は見つかっておりません。それは日本で最先端の医療を誇るうちでも変わりありません。

謎の男　……ねえ先生。俺、やっぱりもうすぐ死ぬんですかね？

青柳　　一般的な見解としては、そうかもしれないですね。ですが、この病気は全世界でも約150例の報告があるのみです。いかなせん症例が少なすぎるので、その時言われた余命に関しては、10年というのが正しいのかは一概に言えません。

謎の男　そうですか。

青柳　　紺野さんが、少しでも長く生きられるために、私たちは力を惜しみません。

謎の男　……ありがとうございます。よろしくお願い致します。

青柳　　失礼します。

青柳、席に着く。

○第四幕第六場

私2、席を立つ。

謎の男　来てくれたんだ。

私2 私、行けなかった。

謎の男 え？

私2 光の最後のステージになるかもしれないのに！ 私、下らない意見はって、私……。ごめん、ごめんね。

謎の男 最後にはしない。

私2 え？

謎の男 最後は、絶対にお前に見てほしいから。この間のは、最後にはしない。

私2 でも、光、もう、ギターが……。

謎の男 DTMって知ってる？

私2 DTM？

謎の男 デスクトップミュージックって言ってさ、今の時代、パソコンで音楽が作れちゃうんだよ。だからさ、それを勉強しようと思ってる。最後のステージは、まだこれからだ。

私2 光……。

謎の男 その手に持っているのは何？

私2 え？ あ、うん。病院、暇かなーって思って、本持ってきた。

謎の男 ああ、ありがとう。

私2 それと、この間の文化祭の私たちの冊子。

謎の男 あ、そうだそうだ。楽しみにしてた。

私2 私のももちろん読んで欲しいけど、沢近先輩が書いたやつがすっごい面白くてね。

謎の男 沢近先輩？

私2 うん。文芸部の先輩なんだけど、なんだろう、こう一歩むこう側の人っていうか、突き抜けてるんだよね。才能があるってああいう人のことをゆるやかなーって思う。

謎の男 ……好きなのかよ。

私2 え？

謎の男 その沢近先輩ってやつのこと。

私2 別にそういうのじゃないよ。ただ尊敬してる先輩だっただけ。

謎の男 そうだよな。才能もなくて後は死んでくだけの俺なんかより、才能があって未来もあるやつの方がそりゃいいに決まってるよな。

私2 そんなこと言っていないでしょ！

謎の男 ほら、こんなところにお見舞いに来てるなんて沢近先輩に知られたら大変だろ？ さっさと帰った方がいいんじゃないの？

私2 ……なんで？

謎の男 え？

私2 なんでそんなこと言うの！

私2、席の前で立つ。

○第四幕第七場

同時に青柳、席を立つ。

青柳 いいんですか？

謎の男 何がですか？

青柳 先日の女の子。

謎の男 え？

青柳 好きなんでしょう？ あの子のこと。

謎の男 いや、あいつはただの幼馴染で。

青柳 ご両親から聞きましたよ。おうちではあの子のことばかり話すそうです
すね。

謎の男 それは。

青柳 あの子だけがあなたの病気を昔から知っているのでしょうか？

謎の男 ……はい。

青柳 だから、あの子を好きになってはいけません。ずっと、そう思っていた
のでしょ？ 自分ではあの子を幸せにできないと。

謎の男 それも親が？

青柳 これは勘です。

謎の男 嫌な先生ですね。

青柳 これは、ご両親から聞いたお話ですが、あなた、色んな女の子と付き
合っては別れてるそうですね。

謎の男 それが何か？

青柳 人の死に一番必要なのはなんだと思いますか？
謎の男 一番必要なもの？

青柳 それは癒しです。紺野さん、あなたは無意識に癒しを求めているのですよ。ですが、他の女の子ではあなたを癒すことはできません。いつもこう言われてフラれていたのでしょう。「他に好きな子がいるのバレバレ」……と。

謎の男 うちの両親、おしゃべりなんですよ。

青柳 あの子ときちんと向き合った方がいいんじゃないですか？

青柳、私2の肩をポンと叩いた後、席に着く。

【音響・BGM F・I】

謎の男 ……聞いてたのか？

私2 ……うん。

謎の男 あの先生、わざとだな。くそっ！

私2 どうして？

謎の男 え？

私2 どうして言ってくれなかったの？

謎の男 それは……。

私2 私、ずっと待ってたんだよ！

謎の男 だって、俺はもう死ぬんだぞ？

私2 そんなの関係ない！ 私は光が好きなの！ ずっと！ ずっと光は私のヒーローなんだよ？

謎の男 ヒーロー？

私2 幼稚園の時、2人でブランコで遊んでたでしょ？ その時……。

謎の男 こいつは俺の女だ。手を出すな！ 一生俺の女なんだ！

私2 ……覚えてたの？

謎の男 うん。

私2 私、すごい嬉しかったの。

謎の男 でも、今の俺には、一生なんて、言う資格ないんだ。

私2 そんなこと。

謎の男 俺は！

私2 え？

謎の男 俺は、この病気のことを聞かされた時、死ぬまで泣かないって決めた。

自分の死は、自分でなんとかする！ これは自分の問題だ！ 後悔しようが何しようが、自分の問題だ！ 泣かない！ 泣くもんか！ これは俺の戦いだ！ でも！ お前や母さんや父さんは違う！ 俺が死んで残されたお前の気持ちを、俺にはどうすることもできない！ 死んじまったら終わりなんだ！ もう俺からは何もできないんだよ！ わかってくれ……。

私2 違う！ 残される私たちには時間がある！ 何年、何十年かかったって、光の死を乗り越えていく！ もしできなかったとしても、それは私の問題！ 私が何とかする！ でも……、光は死ぬ。もし光が後悔を残して死んだなら、私にはどうすることもできない。死んでしまった人間の気持ちは、私には変えることができないから……。今なの！ 今しかないの！ 光が後悔のないように生きさせてあげられるのは、今だけなの！ 死んじやったら死んじやったら私からは何もしてあげられないんだよ……。

【音響・BGM F・O】

私2、謎の男、静止。

○第四幕第八場

赤羽、青柳、席を立つ。

【照明・屋上】

赤羽 死に必要なのは癒し、ね。

青柳 違えるのか？

赤羽 間違っではないけど。

青柳 じゃあなんだよ？

赤羽 残された人たちに必要なのもまた、癒しなの。

青柳 そこは医者の方分じゃねえな。

赤羽 多いのよ。家族を亡くして、鬱病や統合失調症になる人。

青柳 そこは外科の方分じゃねえな。

赤羽 そうね。でもあなたのその、患者にドラマを作らせるやり方のせいで私の仕事が増えてるかもしれないって。少しは考えてみてもらえる？

青柳 やだね。俺にとって一番大事なのは、患者の家族でも恋人でもない。

患者本人だ。たとえ病気が治せなかりうと、満足して死んでもらいてえ。俺

は間違ったこと言っちゃいけないと思うが？

赤羽 議論するだけ無駄ね。

青柳 わかりやいいんだよ。わかりや。

赤羽、青柳、席に着く。

○第四幕第九場

病室。

【照明…病院】

謎の男 学校、行かなくていいのか？

私2 学校の勉強なんかよりも大事なことがあるの。

謎の男 とか言って、サボりたいだけじゃないか？

私2 そうだったりにしてー。

謎の男 ……この数週間、楽しかった。

私2 ……感謝してよね？

謎の男 ああ、本当にありがとう。……こんな言葉で、表現できてるのか、わ

からないけど、お前を、愛してる。

私2 ……うん。私も、愛してるよ。

謎の男 (笑う。)それと、ごめんな。

私2 え？

謎の男 D T M、間に合わなかった。最後のステージ、見せてやれなかった。

私2 いいよ。

謎の男 ……歌うか。

私2 え？

謎の男 代わりと言っちゃなんだけどさ、歌うよ、ブルーハーツ。

私2 ……うん。

謎の男 口はまだ動くからさ。

私2 うん。

謎の男 お前も、歌ってくれよ。

私2 え？

謎の男 知ってるだろ？「終わらない歌」。

私2 うん。

謎の男 紺野光、ラストライブだ。

私2 うん。

謎の男 行くよ、せーの。

2人で歌い始めるが、やがて謎の男の声は聞こえなくなる。
声が聞こえなくなっても、私2は泣きながら1人で歌い続ける。

終わらない歌を歌おう クソツタレの世界のため

終わらない歌を歌おう 全てのクズ共のために

終わらない歌を歌おう 僕や君や彼等のため

終わらない歌を歌おう 明日には笑えるように

私2、中央へ。

【照明…スポット(中央)】

私2 光は最後まで泣かなかった。

【照明…ブルー】

【音響…ピアノ F・I】

私2、席に着く。

謎の男、去る。

○第五幕第一場

赤羽、青柳、白幡、席を立つ。
屋上。

【音響…ピアノ F・O】

白幡、泣いている。

【照明…屋上】

青柳 まーた泣いてんのかよお前。

白幡 だって……。

赤羽 この話を聞いて泣くということは、患者に感情移入しているのと同じです。

白幡 そうかもしれません……。

青柳 さーて、次はまた今度だな。仕事に戻るぜ。

【音響…心電図 F・I】

赤羽、白幡、青柳、席に着く。

○第五幕第二場

同時に灰島と石黒が立つ。

精神病棟。

灰島、石黒、ボックスに座る。

【音響…心電図 F・O】

【照明…精神病棟】

【音響…ヒーリングミュージック F・I】

石黒、絵を描いている。

灰島 来週退院します。

石黒 おめでとうございます。

灰島 退院したら、工場で働くことになっています。

石黒 そうですか。

灰島 安くて古いアパートですが、そこで1人暮らしも始めます。3日働いたら1日休みというシフトなので、休みの日は石黒さんに会いに来ます。石黒さんに外出許可が出たら、一緒に外へ行きましょう。石黒さんの行きたいところでもいいです。ショッピングでも映画でも山でも海でも。……お金を貯めたら車を買います。そしたらドライブに行きましょう。石黒さんの行きたいところにもどこでも連れて行きます。

石黒 ……ありがとうございます。
灰島 ……どこに行きたいですか？
石黒 灰島さん、私、灰島さんとはどこへも行けません。
灰島 え？
石黒 私、もうすぐ、死ぬんです。
灰島 ……え？
石黒 私といたら、灰島さんは不幸になります。私、灰島さんを不幸にはし
たくありません。だから、どうか、私じゃない、別の誰かを好きになってく
ださい。

石黒、席に着く。

【音響…ヒーリングミュージック F・O】

○第五幕第三場

白幡、赤羽、灰島、席を立つ。

【照明…屋外】

灰島 今までお世話になりました。
赤羽 これから仕事をするようになってお忙しくなるとは思いますが、お薬
の飲み忘れにはお気をつけください。
灰島 はい。
白幡 何か不調を感じたら、いつでもご連絡してくださいね。
灰島 ……ありがとうございます。……あの！
赤羽 为什么呢？
灰島 退院しても、石黒さんに会いに来てもいいでしょうか？ 面会に、来
てもいいでしょうか？
赤羽 ……それはできません。
灰島 どうしてですか？
赤羽 先日から石黒さんの病状が悪化しました。暴れてしまうので、今は保
護室にいます。ですから保護室から出るまでは石黒さんにお会いさせること
はできません。

灰島 石黒さんは、死ぬんですか？
赤羽 ……石黒さんが、そうおっしゃったんですか？
灰島 ……はい。だから自分という不幸になるって。
赤羽 大丈夫ですよ。ここは、日本でも最先端の医療が受けられる東郷大学
医学部付属病院です。安心してください。
灰島 ……そうですか。……じゃあ、石黒さんが保護室から出てきたら、お
会いしたいです。
赤羽 ええ。

【音響…心電図 F・I】

灰島、席に着く。

【音響…心電図 F・O】

白幡 ……赤羽先生。
赤羽 はい。
白幡 石黒さんが、死ぬというのは？
赤羽 ……彼女の妄言です。彼女の身体は至って健康。悪い部分はありません。
白幡 じゃあなぜさつきあんなことを？
赤羽 私達は、患者の妄想を否定してはいけません。患者自身が、それが妄
想だということ、つまり自分が病気であるということに気づかなければいけ
ないんです。石黒さんはまだ自分がなぜ病院にいるのかを理解していません。
……そういう段階なのです。
白幡 ……そうですか。灰島さんは、一人で平気でしょうか？
赤羽 さあ。
白幡 さあって。

○第五幕第四場

青柳、席を立つ。
屋上。

【照明…屋上】

青柳 よう、いよいよ最後の話だな。

赤羽 そうですね。

白幡 また、あの男の人が死ぬんですよね？

赤羽 そうです。

青柳 そろそろ涙も枯れてきたんじゃないか？

白幡 え？

青柳 また赤羽の話を聞いて泣くか？

白幡 それは、わかりません。

青柳 前も似たようなこと話したが、人間ってのはよ、感動映画が好きだよな。

白幡 ああ、青柳先生が暴走した時ですね。

青柳 暴走なんかしてねえよ！ で、なんでだと思う？

白幡 ……なんででしょう？

青柳 泣くってのはストレス発散になるんだよ。

白幡 確かに、そうかもしれませんね。

青柳 だからよ、俺は患者が死んだら、泣いてストレスを発散するんだ。

白幡 また不謹慎な。

青柳 そしたらまた前を向いて進める。わかるか？ 俺たちは自分のために泣いてるんだ。今、自分の人生はうまくいっていないけれど、もっとひどい人だっているんだ。だから私は頑張ろう。そう思う。人間ってのは下を見ると安心するんだ。自分より悲しい、切ない、かわいそうな奴が好きなんだ。お前は、特に下を見ることが安心するタイプなんだ。お前の人生がそうだよ。

必死で勉強して自分より下をいっぱい作って、それを見て安心する。俺と同じだ。だからお前は患者に感情移入するんだよ。

白幡 違います！ そんなんじゃないやありません！

青柳 偽善はやめろって？ 楽になるぜえ？

白幡 偽善も何も、私は、そんな風に思ったことはありません！

赤羽 青柳くんのマシンなところは、自分がドラマにのめり込んでいることを自覚していることです。白幡先生、あなたは無自覚な分、タチが悪い。非常に危険な状態です。

白幡 危険な状態？

赤羽 無自覚のままこの仕事を続けていたら、あなたはいつか心を病みますよ？

白幡 そんなこと……。

赤羽 まあ、それはさておき、3つ目のお話を始めましょうかね。

青柳 (笑って)この前置きの後に泣いたらお前は本物だな！

【照明…ブルー】

【音響…ピアノ F・I】

赤羽、白幡、青柳、席に着く。

○第六幕第一場

私3、緑川、席を立つ。

居酒屋。

席に座っている者はエキストラとして談笑する。

私3、緑川、ボックスに座る。

【音響…ピアノ F・O】

【照明…室内】

緑川 あー空からいい男降ってこないかなー。

私3 何それ？

緑川 いい男が降ってきてさ、私に一目惚れすんの。「君こそ俺がずっと探し求めていた女性だ」ってさ。

私3 そんなのアニメでも見たことないよ。

緑川 じゃあさ、降ってこなくていいからさ、レクサスのLSでブーンって登場して、私に一目惚れすんの。

私3 なんで車種が指定されてんの。

緑川 レクサス乗ってれば、いい男でしょきつと。

私3 玻璃の基準がわかんないわ。

緑川 お金持っていて、そこそこの顔がよくて、私のことを好きになってくれさえすれば誰でもいいの。普通でいいの普通で。

私3 普通の男はレクサス乗ってません。

緑川　ねえ、合コン行かない？

私3　えー、いいよ私は。

緑川　レクサス男子を探しに行こう！

私3　別に私、レクサス求めてないから。

緑川　……なんかさ、辛気臭い時はパーっと盛り上がった方がいいんだよ。

私3　私、そういうの苦手だし。

緑川　そう言わずにさ。

私3　でも……。

緑川　いいでしょ？　仕事仲間が一人来れなくなっちゃってさ、数合わせで

いいから！　お願い！　ね？　私のためだと思って！

私3　わかったよ。

【音響：青春映画などによく使われて一定層からは嫌われる(嫌いな

歌姫ランキングなどに入る)曲②(①よりも新しい曲)　F・I】

緑川、席に着く。

エキストラ、静止。

私3、中央へ。

【照明：スポット(中央・下手)】

○第六幕第二場

謎の男(金城)　出てくる。

謎の男は凶面を引いている。

私3　彼と出会ったのは、そうして無理やり連れて行かれた合コンでした。

私は昔から、そういう場が苦手だったのでうまく話せなかったんですが、彼は真摯に話を聞いてくれました。彼の名前は、金城修。ベテランの建築デザイナーです。私との年は30近く離れていて、あまりの年の差に玻璃も驚いていました。彼は所謂仕事人間っていう感じの人で、今まで仕事にしか生きてこなかったせいか、ろくな恋愛をしてこなかったそうです。彼は25歳の頃から毎日ブログで日記をつけているのですが、なんと一度も欠かしたことがないので。彼の人生はそのブログと彼が生み出した建築に凝縮されてい

ると言っても過言ではありません。彼は私に言いました。

謎の男 君は僕に似ている気がする。……なんていうのかな、見えてる世界が違うというか、あまり良い言い方ではないんだけど、人生を諦観しているというかね。

私3 胸にズシンとききました。彼の言ってることが正しいと思ったからです。私はどこか抜け殻のように生きている節がありました。今やっている音楽制作会社の事務の仕事だって、別に音楽に興味があってやっているわけではありません。ただ、なんとなくでした。流されるように、なんとなく。たぶん私はなんとなく生きてなんとなく死んでいくのでしょうか。そう思っています。様々な有名な建物を作ってきたこの人でさえ私と同じように考えているんだと思ったら、少し楽になりました。彼は私のことをわかってくれている。愛してくれている。そう、思ったんです。

【音響・青春映画などによく使われて一定層からは嫌われる(嫌いな歌姫ランキングなどに入る)曲②(①よりも新しい曲) F・O】

【照明・スポット(中央)】

私3 でも、彼がそう考えていたのには理由があったんです。

私3、席に着く。

○第六幕第三場

青柳、席を立つ。

病院。

青柳、謎の男、ボックスに座る。

【照明・病院】

青柳 大腸癌のステージⅣです。肺や肝臓への転移がみられます。統計的に申しますと、5年生存率は18.8%です。謎の男 18.8……。5年後には80%以上の確率で死んでいるってことですね。

青柳　そうなります。金城さん、金城さんはこれから2つの道を選ぶことができます。

謎の男　2つの道？

青柳　1つ目の道は、少しでも長く生きるために病院で治療をすることです。抗がん剤を使用します。副作用は辛いかもしれませんが、延命の可能性があります。2つ目の道は、癌を縮小させることは諦め、痛み止めなどをを用いて、可能な限り外で暮らすことです。私としては、辛い戦いにはなると思いますが、当院にて抗がん剤を使用しつつ延命を図るのが……。

謎の男　治るんですか？

青柳　……。

謎の男　私の癌は治るんですか？

青柳　いえ、完治するということはありません、ですが少しでも長く。

謎の男　抗がん剤の副作用、テレビで見たことがあります。見ているだけで辛いものでした。治りもしないなら、その辛い思いに何か意味はありますか？

青柳　それは、少しでも長く……。

謎の男　バカにしないでください！

青柳　……決してそのようなことは。

謎の男　私は、人間らしく生きて、人間らしく死にます。これも運命なのでしよう。体が動くうちは、私は仕事をし続けようと思います。2つ目の道を、選ばせてください。

青柳　……承知しました。

青柳、席に着く。

○第六幕第四場

私3、席を立つ。

【照明…屋外】

【音響…BGM F・I】

謎の男、凶面を持って舞台上を歩き回る。

私3　彼はその日から、自分が今まで作ってきた建造物を1つ1つ見て回る

ことにしたそうです。1つ1つに対する思いがとても強いので、ブログにはびっしりとその建物についてのが書いてありました。でもだんだんとブログの文字数は減っていきました。それは、ある日からは2人で回ることになったからです。

私3、謎の男の後ろを付かず離れずついて行く。

謎の男、時折後ろにいる誰かに話しかける様子を見せる。(私3ではない。)

私3 自分の建築に対する思いをその場で話すことができる人ができたので、その分ブログに書くことは必要最小限で済むようになったのです。彼に必要だったのは、そういう話し相手だったのかもしれない。思えば都合コンに参加しようと思ったのも、そういう相手を探していたからなのでしょう。あの合コンはどうやら元職場の後輩に頼み込んで無理やりセッティングしてもらったらしいです。ある時、彼の主治医は言ったそうです。死に一番必要なのは癒しであると。私が彼の癒しになっているかはわかりませんが、そうありたいと思いました。

【音響…BGM F・O】

謎の男、ボックスでベッドをつくり、寝る。

【照明…病院】

私3、席に着く。

緑川、席を立つ。

謎の男 ……結局、この病院に戻ってきてしまったなあ。自宅で、死にたかった。

緑川 そんなこと言わないでくださいよ。

謎の男 家に、あるんだよ。

緑川 何がですか？

謎の男 今まで、私がつくってきた建物たちの写真が……。それに、囲まれて死にたかった。

緑川 ……お持ちしましょうか？

謎の男 いや、いい。今は、それよりも、誰かがそばにいて欲しいんだ。

緑川 ……そうですか。

謎の男 だけど、この病院でよかった。

緑川 そうですか？

謎の男 東郷大学医学部付属病院の新棟は、私の最後の作品だ。この地で、最後を迎えられるなら、それも、本望だ。

緑川 まだ完成はしてませんが、新棟の評判、すごくいいそうですよ。

謎の男 そうか、それは、ありがたいな。

そこへ私3が駆け込んでくる。

【音響…BGM F・I】

緑川 どうして？

謎の男 それは……。

私3 修さんの作品ですよ。持ってきました。

私3、写真の束を謎の男に渡す。

謎の男 わざわざ、持ってきてくれたのか？

私3 私にできることは、これくらいですから。

謎の男 ありがとうございます。

私3 今、飾りますね。

座っている者が写真を掲げる。

私3 こんな感じですかね？

謎の男 ああ……ありがとうございます。すまないが、1つお願いを聞いてくれないか？

私3 はい。

緑川 なんてしょう？

謎の男 手を、握ってくれないか？

緑川 わかりました。

私3、緑川、金城の手を握る。

謎の男 ああ、鮮やかだ。世界はこんなにも鮮やかだよ。私はこの美しい世界で生きれてよかった。1人じゃなかった。ありがとう。……ありがとう。

【音響…BGM F・O】

私3、中央へ。

【照明…スポット(中央)】

私3 修さんは最後、とても満足そうな顔をしていました。

【照明…ブルー】

【音響…ピアノ F・I】

謎の男、去る。

私3、緑川、席に着く。

○第七幕第一場

赤羽、青柳、白幡、席を立つ。
屋上。

【音響…ピアノ F・O】

【照明…屋上】

青柳 おっ。泣いてねえな。

白幡 ……はい。

青柳 ドラマは飽きたか？

白幡 ドラマだなんて思ってます。……ですが。

青柳 どうした？ 神妙な顔して。

白幡 わかりません。

青柳 ん？

白幡 わからないんです。どうして赤羽先生が私にこの話をしたのか。

赤羽 ……そうですか。

赤羽、席に着く。

白幡 青柳先生はわかってるんですよ？

青柳 わかってるっつうか、まあ謎の答えは知ってるな。

白幡 じゃあ教えてもらえますか？

青柳 やなこった。

白幡 なんですすか？

青柳 俺と赤羽は同期だが、派閥でいうと敵同士なんだよ。じゃあな。

【音響…心電図 F・I】

青柳、席に着く。

○第七幕第二場

石黒、席を立つ。

精神病棟。

石黒、白幡ボックスに座る。

【音響…心電図 F・O】

【照明…精神病棟】

石黒 あの。

白幡 はい。

石黒 灰島さんは……。

白幡 もう退院されましたよ？

石黒 ……そうすか。

白幡 どうかされました？

石黒 いえ。お別れくらい言いたかったなああって。

白幡 そのうち、会いに来てくれると思いますよ。

石黒 ……はい。それまで、私が生きていらればいいですけど。

白幡 ……大丈夫ですよ。

石黒、席に着く。

【照明…病院】

白幡、席に着こうとする。

○第七幕第三場

病院廊下。

緑川、席を立つ。

白幡と緑川、すれ違う。

白幡

お疲れ様です。

緑川

お疲れ様です。

白幡、すぐに引き返す。

白幡

緑川さん？

緑川

はい。

白幡

そのネームプレート！ 緑川さんですよ？

緑川

はい。そうですけど。どうかされました？

白幡、緑川、静止。

○第七幕第四場

赤羽、青柳、席を立つ。

屋上。

【音響…BGM F・I】

【照明…レッド】

青柳

相変わらず悪い女だねーお前は。

赤羽

何が？

青柳

感情移入するなするなと言っておいて感情移入せざるをえないように

仕組んでやがる。

赤羽 そんなつもりはないけど？

青柳 あいつ、精神科に引き込まむつもりか？

赤羽 さあ。それはあの子が判断することでしょう？

青柳 そりゃそうだ。

赤羽、青柳、静止。

【照明…屋外】

白幡、緑川、舞台中央へ。

○第七幕第五場

病院の庭。

ボックスに座る白幡と緑川。

緑川 へえ、赤羽先生がそんな話したんだー。

白幡 そうなんです。1つ目と3つ目のお話に緑川さんが出てきたから、緑

川さんなら何か知ってるんじゃないかと思って……。

緑川 ……うん。まあ、知ってるよ。

白幡 教えてください！ それで、私の進む道が見えるかもしれないんです！

緑川 白幡先生はどう思ったの？ その3つのお話を聞いてさ。

白幡 まず明らかにおかしいのは3回死んでる男の人です。生まれ変わりの

わけもそっくりさんなわけありませんよね？

緑川 うん。まあ、そうだね。

白幡 だから私は、違う男の人が、同じ男の人に見えてるんじゃないかって
思いました。

緑川 ふーん。

白幡 赤羽先生は精神科の先生です。このお話がその指導なのだとすれば、
このお話は精神の話で説明がつくと思うんです。

緑川 そうかもね。それで？

白幡 私なりに考えました。そして一つの仮説ができました。

緑川 それは？

白幡 つまり、このお話はオムニバスなんかじゃない！ 1人の女性の1つのストーリーだったってことです！ 幼馴染が好きだった女子高生も、自分のためのCDが発売されるのを心待ちにした女の子も、建築デザイナーに最後まで寄り添った音楽制作会社の事務の女性も全部！ 同一人物！ 同じ人なんですか？

緑川 ……おお、白幡先生、それ、正解。

白幡 幼馴染を亡くした女子高生は、好きになった相手が全部その幼馴染の顔に見えるようになってしまった。

緑川 そうらしいね。私にはちゃんと、浅黄邦博さんも金城修さんも別人に見えてたよ。

白幡 どうして、そんなことになってしまったんでしょう。

緑川 白幡先生はさ、ドラマのその先って考えたことある？

白幡 え？

緑川 病気で大切な人を亡くすのはいつもドラマの終盤。感動的な手紙なんかで、物語は幕を閉じる。前を向いて歩こうってね。でもさ、私も看護師の端くれだから言えるけど、死ってそこで終わりじゃないんだよね。それから先が大事なんだ。

白幡 そっから先？

緑川 話してあげようか、その女子高生が、その後どんな目にあったか。

【音響…BGM F・O】

白幡、緑川、静止。

○第七幕第六場

私2、席を立つ。

【照明…スポット(中央)】

【音響…BGM F・I】

【音響…紺野の父と母の声】

母 初めは毎日挨拶に来てくれてたのに、最近来てくれないから光のこと

忘れちゃったのかと思ったのよ。

父 光が行きたがってた大学があるんだ。音楽のことも学べるらしいよ。夢を継ぐってわけじゃないけど、受けてくれるとありがたいなって。

私2 おばちゃん、おじちゃん、ごめんなさい。私、もうこの家には来れませんが……。ごめんなさい。もう、無理なんです、私。

母 ちょっと！ 引越すってどういうこと！ 光を見捨てるのあなた！ 光はあんなにあなたのことを！

父 光はもう戻ってこないんだぞ！ 君が！ 君が忘れてしまったら誰が光の生きた証を残せるっていうんだ！

【音響…転校先の高校】

友人A 聞いたよ。大変だったね。辛かったね。でも大丈夫！ 私たちがついてるから！

友人B 私たちにできることがあったら何でも言ってみてね！

友人C 何悲劇のヒロインぶってるの？

友人D てゆーかそんなこと言ったらもう一生恋愛できないじゃんねー。

私2 ごめんなさい。……ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。……ねえ、光？ 私、どうやって生きていけばいいのか？ 私ってかわいそうな人なのか？ 私ってもう誰かを好きになっちゃいけないのかな？ ねえ光、光がいなくなっちゃって、おばちゃんもおじちゃんも変わっちゃった。お母さんとお父さんはまるで光なんていなかったみたいに話すの。光はずっと一緒にいたのに、ねえ光、私、どうしたらいいのか。もう光のところに行っちゃおうかな。……でもそれは、光もお母さんもお父さんも悲しむよね。ねえ、どうすればいいのか？ ねえ、助けてよ！ 光。

【音響…BGM F・O】

その場に倒れる私2。

○第七幕第七場

病院の庭。

【照明…屋外】

緑川 生きてる限り幼馴染の死がつきまとう。とてもじゃないけど女子高生が背負えるものじゃない。

白幡 それで…：救いを求めていくうちに、幼馴染の、紺野光の幻影を見るようになってしまった。

緑川 ま、本当のところは本人にしかわかんないけど、多分そうなんじゃないかって赤羽先生は言ってた。

白幡 ドラマの、その先…。赤羽先生はそれが言いたかったんですかね？

緑川 まだ、終わりじゃないよ。

白幡 え？

緑川 まだお話は2つ残ってる。あなたはこの2つのお話に違和感を感じなかった？

白幡 ……：そう言われると、何か違和感を感じたような気も。

緑川 私も初めは気付かなかった。でも、あの日、わかったの。

白幡、静止。

○第七幕第八場

席についている者は建物の写真をかざす。

私3、緑川、席を立つ。

【照明…スポット(下手)】

【音響…BGM F・I】

緑川 どうして？

私3 え？

緑川 どうしてあんたがその写真持ってこれたの？

私3 どうしてって？ 彼の家から持ってきただけだよ？

緑川 それがおかしいって言ってんの！

私3 付き合ってたら普通でしょ？

緑川 付き合ってたのは私でしょ！

私3 ……え？

緑川 だから！ 金城さんと付き合ってたのは、私でしょ！

私3 わかんない。何言ってるの？ 私、修さんと一緒に彼の作った建物を
見て回って……。

緑川 それも私！ あんたは、金城さんとは付き合っていない！

私3 ……違う。え？ 何？ わかんない。怖い。違う。戻りたくない。嘘。

知らない。だって私。いつも。一緒に。え？ そうだよ。違うよ。怖い。や
だ。え？

緑川 ちょっと、どうしたの？

私3 ……ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ご
めんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ご
めんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。

緑川 ちょっと！ 大丈夫？

私3、倒れる。

席にしている者は建物の写真を下ろす。

【音響…BGM F・O】

○第七幕第九場

赤羽 わかりました。かなり不安定な様子ですので、入院させて様子を見ま
しょう。

緑川 お願いします。

赤羽 ちょっと青柳くんにも話を聞いてみる必要があるそうね。

○第七幕第十場

私1、席を立つ。

緑川、私1の写真を撮る。(フラッシュ)

【照明…スポット(上手)】

【照明…上手奥】

【音響…BGM F・I】

私1 クニへ。クニにはもう会えないって言うことがわかったので、せめて私の笑顔でクニの頭の中をいっぱいにしてあげたいなって思ったので写真を撮って送ることにしました。

青柳 写真？

赤羽 そう、浅黄さん、彼女さんからの写真もらって喜んでたって。

私1 離れていても私たちの心は1つです。

青柳 ああ？ ああ、ああ手紙ね。手紙はもらって喜んでたよ。

私1 クニが悲しむといけないからこの手紙には悲しいことは1つも書かないって決めました。

赤羽 一緒に写真が入ってなかった？

私1 楽しかった日の思い出を写真と一緒に話していこうと思います。

青柳 いや？ ん？ 待てよ。ああ、あったわ謎の写真。

赤羽 謎の写真？

青柳 いや、なんでもさ、1、2回しかしゃべったことのない女の写真が大量に送られてきて超怖かったって話よ。音楽プロデューサーとかになると悪質なストーリーカーがうちやうんですねーなんて話したわ、そーいや。

私1 まずは私とクニが初めて会った日のことです。

私1、倒れる。

【音響…BGM F・O】

○第七幕第十一場

病院内。

【照明…病院】

【音響…BGM F・I】

赤羽 エロトマニア。

緑川 エロトマニア？

赤羽 それが彼女の病名です。クレランボー―症候群とも言います。妄想性障

害の1つで、自分が相手に愛されていると妄想的確信を抱いている状態を言います。その対象は自分よりも社会的地位の上の人間になることが多いのですが、音楽プロデューサー、建築デザイナー、そしてその年の差などを考慮しても、これに当てはまります。この病気になるってしまうのは自分のアイデンティティーに充実感を見出せないからと言うのが通説です。自分の存在意義がわからないため他人を通して充足を得ようとするのです。おそらく発端は幼馴染の死後、周囲の環境から自分の存在意義を剥奪されていった結果ではないかと推測されます。緑川さん。

緑川 はい。

赤羽 彼女は病気なのです。どうか、今回の件も許してあげてください。

緑川 そうですね……。

【音響・BGM F・O】

赤羽、静止。

緑川、座る。

○第七幕第十二場

病院の庭。

【照明・屋外】

白幡 エロトマニア……。それが、このお話の真相。

緑川 そういうこと。

白幡 ありがとうございます緑川さん。おかげさまで疑問が解決しました！

緑川 ……わかってないわね。

白幡 え？

緑川 あなたはそうやってすぐドラマを終わらせたがる。

白幡 それは……。

緑川 彼女はまだ治療中なのよ。

白幡 ……あ。

緑川 ようやく気づいたようね。赤羽先生が何を言いたかったのか。

白幡 ……でも、それは……そんな。

緑川 どうするの？

白幡 ……失礼します！

緑川 待って！

白幡 ……はい。

緑川 私の友達、悲しませたら、ただじゃおかないから！

白幡 はい！

○第七幕第十三場

灰島、席を立つ。

病院の待合室。

【照明…病院】

灰島 お話って何でしょうか。

白幡 私は、灰島さんを信頼します。

灰島 え？

白幡 灰島さんが、石黒さんを思う気持ちは、本物ですよ。

灰島 ……もちろんです。僕、わかったんです。退院してみても…この世界は僕みたいな人間に心地よい居場所なんて与えてくれないんです。だから、僕は、僕の手で居場所を作るしかない。そしてそれは、石黒さんの隣なんです。

白幡 ……わかりました。では、あなたは知らなければなりません。彼女の、石黒萌絵香さんの病気のことを。

【照明…ブルー】

【音響…ピアノ F・I】

私、1、2、3と緑川以外席に着く。

○第八幕第一場

石黒、席を立つ。

精神病棟。

石黒、ボックスに座る。

【照明…精神病棟】

【音響…ピアノ F・O】

石黒、絵を描いている。

緑川 萌絵香、どう調子は？

石黒 よく、わかんない。

緑川 なんの絵、描いてるの？

石黒、まっすぐ指をさす。

緑川 それは……。

石黒 東郷大学医学部付属病院新棟……。でも、なかなか完成しないの。

緑川 ……。

石黒 玻璃、飴舐める？

緑川 飴？ 萌絵香って飴嫌いじゃなかったっけ？

石黒 うん。嫌いだった。

緑川 舐めるようになったの？

石黒 うん。赤羽先生が、私でも食べれそうな飴、探してくれたの。

緑川 へー。じゃあ、もらっところかな。

石黒 うん。

緑川、席に着く。

○第八幕第二場

灰島、席を立つ。

【照明…屋外】

【音響…BGM F・I】

灰島、石黒、ボックスに座る。

灰島 やっと2人で外に出れました。

石黒 そうですね。

灰島 これ、ブルーハーツのCD、ずっと返しそびれてました。

石黒 あ。

灰島 ありがとうございます。

石黒 いえ。

灰島 今日は、石黒さんにお話があります。

石黒 为什么呢。

灰島 僕は、石黒さんのことが好きです。

石黒 ……はい。

灰島 だから、僕は石黒さんのことをもっともっと知りたいです。

石黒 ……はい。

灰島 石黒さんの昔のお話を聞きました。

石黒 え？

灰島 それでも、僕は石黒さんが好きです。

石黒 ……。

灰島 石黒さん？

石黒 知られたくなかったです。

灰島 え？

石黒 灰島さんには、私の昔の話は、知られたくなかったです。

灰島 でも、僕は、それでも石黒さんが好きなんです！

石黒 やめて！

灰島 ……石黒さん。

石黒 もう嫌なんです！ 人を好きとか嫌いとか！ 恋するだとか恋しないだとか！ 愛してるとか愛してないとか！ 辛いんです！ 私、ずっと愛されたかったんです。光に……。幼馴染に……。光は最後の最後に愛してると言ってくれました。その時は嬉しかった。でも私はわかってなかったんです！ 光がどうして最後までそれを私に言わなかったのか、光はわかってたんです！ 私が光の死を乗り越えられないことを！ だから最後まで言わなかった！ なのに！ なのに私のわがままで光に言わせてしまったんです！ 私が、私が愛されたいがために、わかってたのに！ 光が私のことを大切に思ってくれてることぐらい、わかってたのに！ でも、言葉が欲しかったんです！ 灰島さんは、素敵な人だと思います。だからこそ、私なんかと一緒に

にいちやダメなんです。私はもう直ぐ死ぬんです。このまま黙って死んでいきます。

灰島 ……好きです。

石黒 やめてください。

灰島 ……好きです。

石黒 やめて！

灰島 ……好きです。

石黒 ……。

灰島 好きです。

石黒 ……。

灰島 好きです。結婚してください。

石黒 ……。

灰島 僕は、石黒さんが死んだら、きっとその死を乗り越えてはいけません。

石黒さんを生涯、背負って、生きていきます。石黒さんが光さんのことを乗り越えられなくても構いません。僕が、一緒に、背負います。

石黒 ……乗り越えなくて、いいんですか？

灰島 ……はい。

石黒 ……ありがとうございます。

灰島 結婚、してくれますね。

石黒 ……………はい。

石黒、倒れる。

【音響…BGM C・O】

【照明…レッド】

灰島 え？ 石黒さん！ 石黒さん！ どうしました？ 大丈夫ですか？

しっかりとしてください！

私1、2、3 愛されたい。愛されたい。愛されたい。愛されたい。愛されたい。

【音響…救急車の音 F・I】

私1、2、3、「愛されたい」と口ずさみながら、石黒を支え、去る。

灰島 ああああああああああああああああああああああああああああああああ！

灰島、叫びながら去る。

【音響…救急車の音 F・O】

○第八幕第三場

赤羽、白幡、席を立つ。
屋上。

【照明…屋上】

赤羽 自分のしでかしたことがわかっているんですか？

白幡 ……私は、2人の恋愛の手助けをしようとしただけです。

赤羽 統合失調症患者の自殺企図の生涯リスクは25%～50%。非常に高いんですよ。

白幡 ……はい。

赤羽 灰島さん、石黒さんが倒れた後にビルの屋上から飛び降りました。今、うちで手術を受けています。

白幡 はい。

赤羽 あなたの軽はずみな行動が、このような事態を招いたんです。

白幡 ……申し訳ございません。

赤羽 なぜ私の判断を仰がなかったんですか？

白幡 ……赤羽先生に3つのお話をされて、その真相がわかった時、灰島さんに全てを伝えるまでが私の役目だと、そう、勘違いしました。

赤羽 それが危ういと言っているのです。

白幡 申し訳ございません。

赤羽 あなたに成長を期待した私が馬鹿だったようですね。

青柳 馬鹿と煙と悪い奴は高いところが好きってね。

青柳が席を立つ。

赤羽 青柳くん。

青柳 よお。説教中悪いなあ。

赤羽 何の用？

青柳 灰島さん、かなり危険な状態だそうだ。

赤羽 ……そう。

青柳 だが、石黒さんの方が問題だ。まず倒れた原因がわからねえ。かなり衰弱してるし意識もない。非常に危険な状態だ。赤羽、何か心当たりはないのか？

赤羽 ……私はもうすぐ死ぬ。そんなことを言ってた。もちろん妄言で、身体も健康そのものだったけれどね。

青柳 ……ひたすら検査するしかないか。

赤羽 ノーシーボ効果。

青柳 あ？

赤羽 人は思い込みで死ぬこともある。

青柳 バカ言ってるじゃねえ！ そんなんで死なれてたまるか！

白幡 どういうことですか？

赤羽 白幡先生、プラシーボ効果はご存知ですか？

白幡 はい。ただのサプリメントなんかを、これを飲めば絶対に治るとか言うって患者さんに飲ませると治らないはずの病気が治ったりする……。

赤羽 その反対です。癌でないのに、癌と誤診されたことで、具合が悪くなり死んでしまうと言うことが起こりうるのです。

白幡 石黒さんは自分が死ぬと信じていたから死ぬってことですか？

赤羽 そうです。

青柳 ふざけんな！ そんな意味わかんないまま死んでたまるかよ！

赤羽 青柳くんの大好きなドラマでは、もっと意味がわからないまま人は死んでいくでしょ？ 何の病気かもわからないまま……ね。

青柳 それとこれとは話が別だ！ 納得できるか！

赤羽 確かプラシーボ効果では、砂糖を丸めたものでも効果があった事例があるそうですよ？

青柳 ……赤羽、てめえ、何で冷静でいられんだよ！

赤羽 医者ですから。

白幡、青柳、赤羽、静止。

○第八幕第四場

【照明…ブルー】

【音響…BGM 子供の声の歌 F・I】

私1、2、3が出てくる。

私1、2、3、詩を唱えながら、石黒の周りを回る。

灰島、出てきてボックスの上に寝る。

私1・私2・私3 今日も誰かが死んだようだ。

かわいそうだと私たちは嘆く。

なんの病気かもわからない。

どんな治療をしているかもわからない。

残された人々の苦悩も知らない。

それでも私たちは涙を流す。

どこの誰ともわからないあなたに涙を流す。

私たちはあなたが好きだから。

かわいそうなあなたが好きだから。

今日も誰かが死んだようだ。

石黒、フラフラと入ってくる。

石黒、灰島の元へ行き、灰島の手を握る。

【照明…中央サス】

石黒 ……ありがとう。そしてさようなら。

私1、2、3、石黒の首を絞める。

【照明…レッド】

微笑みながら倒れる石黒。

灰島の周りに倒れる4人。

【音響…BGM 子供の声の歌 F・O】

○第八幕第五場

【照明…病院】

病室。

灰島、起き上がる。

青柳 目を、覚まされましたか。

灰島 ……石黒さん。 石黒さんは？

青柳 幸い灰島さんが飛び降りた場所は高さがそこまでなかったので一命はとりとめました。ですが、右足踵の粉碎骨折、右手首の骨折はリハビリをしながらとしても後遺症が残るでしょう。

灰島 石黒さんはどうなったんですか！

青柳、白幡の方を見る。

白幡 ……石黒さんは、先日、お亡くなりになりました。

灰島 ……………。

白幡 ……灰島さん。

灰島 ……殺してください。

青柳 それはできません。

灰島 殺してください！

青柳 我々は医者です。

灰島 ……なんで。

赤羽 石黒さんの死因ははっきりしていません。ただ……。

灰島 ……ただ？

赤羽 担当医の話によると最後の瞬間、彼女は笑ったそうです。

灰島 ……少し、1人にしてくれませんか？

赤羽 わかりました。

白幡、赤羽、青柳、席に着く。

○第八幕第六場

【照明…ブルー】

【音響…BGM F・I】

私1、2、3、石黒が灰島の周りを回る。

緑川、席を立つ。

緑川、ボックスに座る。

【照明…病院】

緑川 どうするの？

灰島 ……え？

緑川 何考えてるの？

灰島 ……なんでしよう。

緑川 体が動くようになったらまた死のうと思ってる？

灰島 ……それも、考えました。

緑川 これ。

緑川、手紙を渡す。

緑川 自分にもしものことがあつたら、灰島さんにつて。

手紙を受け取って開ける。

緑川 萌絵香、笑って逝ったんだってね。あんたが最後に闇から救い出した
のかもよ。

灰島 ……石黒さんに、プロポーズしたんです。

緑川 ……萌絵香はなんて？

灰島 最後に、「はい」と言ってくれました。

緑川 ……そう。

灰島 石黒さんは、僕の気持ちに応えてくれました。

緑川 うん。

灰島 ……お願いがあります。

緑川 何？

灰島 石黒さんのご両親に会わせてください。

緑川 え？

緑川、私1、2、3席に着く。
灰島、石黒、去る。

【音響…BGM F・O】

○第八幕第七場

白幡、青柳、赤羽、席を立つ。
屋上。

【照明…屋上】

青柳 結婚式？

白幡 はい。

青柳 なんだそりゃ。

白幡 お葬式と一緒に結婚式を執り行うらしいです。

青柳 そんなのできんのか？

白幡 日本では法的には夫婦にはなれませんが、灰島さんが石黒さんのご
両親に掛け合って形だけでも式を挙げるそうです。

青柳 よく両親も許したな。

赤羽 せめてもの償いのつもりじゃない？

青柳 償い？

赤羽 石黒さんが追い詰められていった責任を感じてるとかね。

青柳 責任ねえ。

白幡 責任……。

青柳 どうしたよ？

白幡 緑川さんに、言われてしまいました。私のことを一生許さないそうで
す。

青柳 俺もしょっちゅう言われるぜ？ 救えたはずの命じゃないか？ 一生
恨みますってな。そのうち慣れるさ。

白幡 ……すいません。

青柳 どうして謝るんだよ。

白幡　すぐには立ち直れそうになくて……。

青柳　そんなの謝る必要はねえよ。そもそも今回の件、お前は赤羽にハマられただけだ。【音響…BGM F・I】

白幡　え？

青柳　お前が灰島さんに告知することも、自殺未遂も、こいつの想定範囲内ってことだよ！　なあ赤羽！

赤羽　は？

白幡　どういうことですか？

青柳　こいつはよ、自分の目的のために患者を自殺に追い込んだんだよ。

白幡　何言ってるんですか青柳先生、そんなこと。

青柳　赤羽は指導と称して石黒さんの話をお前に始めた。なるべくドラマチックな方法でな。そうすりやお前は灰島さんにも石黒さんにも感情移入する。感情移入したお前が取る方法は俺にだって予想がつく。

白幡　そんなこと……。

青柳　ああ、そんなことはありえない。俺もそう思う。緑川ちゃんだってそう思ったはずだ。

白幡　じゃあなんでそんなこと言うんですか？

青柳　こいつが病院長に、メンタルケア科の創設を依頼したからだ。

白幡　メンタルケア科？

青柳　うつ病、双極性障害、パニック障害、ストレス障害、それぞれ診療科目を細分化して患者に向き合う。まあ簡単に言えば精神科の業務拡大だ。こいつは新棟にそのメンタルケア科をつくろうとしてたんだよ。だが他の科を追いやってのメンタルケア科創設は容易じゃない。精神科が大事だと認識させるセンサーショナルな事件が必要だったんだ。病院長にドラマを見せる必要があったんだよ。お前はそれにまんまと利用されたわけだ。

白幡　メンタルケア科創設……そのために？　そんなことのために？　私を利用したんですか？

赤羽　そんなこと……とは聞き捨てならないですね。近年、精神病患者は増加の一途を辿っています。私としてもこれに何か対策を練らねばという思いでメンタルケア科創設を発案したのです。

青柳　そりゃあわかるが、患者を自殺に追い込むのはやりすぎだぜ？　もつとやり方ってもんがあるだろう！　ああ！　おい？

白幡　そうです。患者さんを巻き込むやり方なんて、絶対に間違ってます！

赤羽　（ため息をついて）だからあなた方は、危ういんですよ。私が白幡先生に石黒さんの話をしたのは、珍しい症例を取り上げること、精神科について勉強してもらいたかったからです。そして願わくば精神科医を志して欲しかった。その程度のことです。今回事件が起きて、より一層メンタルケア科の創設の必要性を感じたので病院長に訴えたまでです。お2人ともドラマの見過ぎなんですよ。白幡先生、今回の件は、確かに私の指導ミスな面もあったようです。病院長にはあなたが医者を続けられるように進言します。

白幡　……ありがとうございます。【音響…BGM F・O】

赤羽　立派な医者になるのでしょうか？　1つ2つの死でうだうだ言っていては先に進めませんよ。

白幡　……あの！【音響…BGM F・I】

赤羽　はい。

白幡　1つだけ聞かせてください。

赤羽　なんですか？

白幡　プラシーボ効果は、砂糖を丸めたものでも起こると先生はおっしゃいました。

赤羽　言いましたね。

白幡　赤羽先生なら、ノーシーボ効果を誘発させることができるんじゃないですか？

赤羽　……できませんよ。ドラマの見過ぎです。

白幡　でも、もしノーシーボ効果が起こらなかったとしても、石黒さんをして追い込むような治療方針を赤羽先生がとっていたとしたら！

赤羽　質問は、1つまでですよ。そして今の発言、私の名誉を著しく毀損しています。今回は見逃しますが、それ以上言うならば、病院長への進言はしませんよ。

白幡　……すいません。

赤羽、席に着く。

【音響…BGM F・O】

青柳　言うねえ！　さすが俺の後継者！

白幡 勝手に後継者にしないでください。

青柳 へいへい。

白幡 青柳先生。

青柳 ん？

白幡 赤羽先生は本当に。

青柳 知らねえよ。

白幡 え？

青柳 昔からあいつとは意見が合わねえんだ。今回も合わなかった。そんだけの話だ。

白幡 そんな……。

青柳 なあ白幡。

白幡 はい。

青柳 立派な医者ってなんだろうなあ。

白幡 ……私に聞くんですか、それ。

【音響…BGM結婚式 F・I】

【照明…ブルー】

青柳、白幡、席に着く。

○第八幕第八場

【照明…白幡と緑川の椅子の上】

冥婚式。

舞台中央のボックスに白い衣装に着替えた石黒が寝る。

石黒はベールをつけている。

席に座っている者はエキストラとして、出席者になる。

白幡 緑川さん。

緑川 何？

白幡 申し訳ございません。

緑川 謝らないで。

白幡 でも。

緑川 甘く見ないで。私だってこれでも一応真面目に看護師やってんの。死には慣れてんのよ。

白幡 そんな……。

緑川 私はあなたを許さないけど、あなたとはこれからも仲良くしていこうと思ってる。

白幡 え？

緑川 気づいてるんでしょ？

白幡 何をですか？

緑川 手紙。見たんでしょ？

白幡 ……はい。

緑川 何も言わなかったんでしょ？

白幡 ……言えません。

緑川 気づいてて言わないんだから、わたしとあなたは共犯者。

白幡 そうですね。

緑川 シャキッとしなさい！ 灰島さんは、青柳先生でも赤羽先生でもなく、あなたを、あなただけをこの場に呼んだのよ。

白幡 ……はい。

【照明…中央スポット＋白幡と緑川の椅子の上】

灰島、松葉杖をつきながら入ってきて石黒の前に立つ。

謎の男(声) 奏さん、あなたは萌絵香さんを妻とし、神の導きによって夫婦になるうとしています。汝、健やかなるときも、病めるときも、喜びのときも、悲しみのときも、富めるときも、貧しいときも、これを愛し、敬い、慰め合、いに共に助け合い、その命ある限り……いえ、その命尽きたとしても真心を尽くすことを誓いますか？

灰島 はい。誓います。

謎の男(声) それでは、誓いのキスを。

灰島、ベールアップし、キスをする。

【照明…病院】

一同、飴を投げて拍手。

【照明…暗転】

【音響…BGM結婚式 F・O】

○第八幕第九場

席には誰も座っていない。

飴は散らばったまま。

白幡、赤羽、青柳、舞台中央にて。

【照明…屋上】

青柳 どうだったよ？ 冥婚式は。

白幡 ……不思議な気持ちになりました。

青柳 これで灰島さんは名実共に、石黒さんを一生背負っていくわけだ。

赤羽 死が二人を分かちても。並大抵の覚悟じゃできないことね。

白幡 私、決めました。

青柳 何だ突然？

白幡 私は死に慣れていくなんて、きっとできないと思います。だから、一つ一つ背負っていきます。灰島さんのように……。もちろん、家族の方や恋人の方とは思いが違うかもしれませんが。でも、私は医者として、一つ一つの死に向き合って生きていきます。

青柳 相変わらず真面目だねー。いつまでもつかないかな。

赤羽 保護室、あなた用に一つ空けておきましようか？

白幡 結構です！

赤羽 そうですか。

白幡 赤羽先生！

赤羽 はい。

白幡 私の精神科での研修も終わりになります。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

赤羽 あなたは外科になるそうなので、私はあなたにあまり興味はありませんが、立派な医者になってください。

白幡 ……はい！ 青柳先生、赤羽先生！

赤羽 はい。

青柳 なんだ？

白幡 先生方はこれからも同じことを続けていくのでしょうか？

青柳 当たり前だろ？

赤羽 白幡先生、教えた通りです。私たちは生きています。最終回はないんです。
ドラマの続きを、生きてください。

白幡 …：はい！

白幡、赤羽、青柳、静止。

【照明…客席側から舞台へ斜め方向の照明（屋上日差し用）を1灯残した後、溶暗】

【音響…BGM】

幕。